

令和7年度 保健師ステップアップ研修【ベーシック編】

目指したい保健師像を考える

～キャリアラダーに基づいた目標設定～

埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科地域看護学領域
石崎順子 柴田亜希 伊草綾香 菊池宏

本時の目的

目指す保健師像を描き、
なりたい自分の実現に向けた目標設定ができる

本時の目標

- 行政保健師に必要とされる専門的能力、新任期に特に伸ばしたい能力を理解できる。
- 目指す保健師像を言語化できる。
- 専門的能力に係るキャリアラダーに基づいて、1年後に目指す保健師像に向けた目標設定ができる。

スケジュール

時間		内容
25分	演習①	• 保健師の役割と専門性とは？
30分	講義	• 保健師に求められる能力と役割 • 保健師の専門的能力に係るキャリアラダー
45分	演習②	• 目指す保健師像と目標設定
20分	全体共有 まとめ	• グループ討議内容の発表・共有

演習①の進め方

保健師の役割と専門性とは？

25
min

時間の目安	内容
10分	オリエンテーション アイスブレイク
15分	グループ討議① 「保健師の役割・専門性」について意見交換する

演習②の進め方

目指す保健師像と目標設定

45
min

時間の目安	内容
10分	個人ワーク 目指す保健師像と目標設定の見直し
35分	グループ討議② 目指す保健師像の発表と共有

保健師に求められる能力と役割

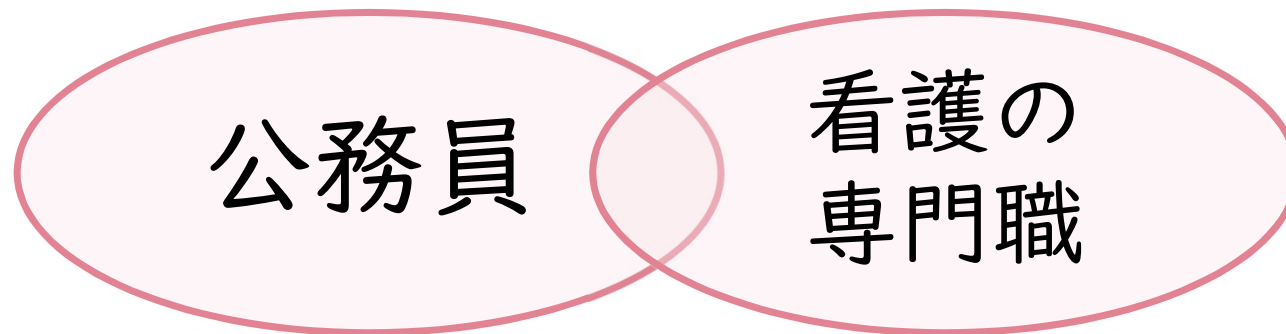
～専門的能力に係るキャリアラダーと
キャリアレベルの確認～

本講の概要

- 保健師の役割と専門的能力
- 専門的能力に係るキャリアラダーとキャリアレベルA1で求められる専門的能力

行政保健師 = 専門職であり行政職

- 地域のすべての人々がよりよく在ることができるよう、将来を見越して健康課題解決を図ることが求められる



両方の利点を生かす

行政保健師に求められる能力

専門職としての実践能力のみならず、
連携調整能力*が求められる

*保健医療関連施策は分野横断的に取り組まれていることから、
部門間の連携調整は不可欠

保健師活動指針

地域における保健師の保健活動について

（平成25年4月19日付け健発0419第1号 別紙「地域における保健師の保健活動に関する指針」）

- ① 地域診断に基づくPDCAサイクルの実施
- ② 個別課題から地域課題への視点及び活動の展開
- ③ 予防的介入の重視
- ④ 地区活動に立脚した活動の強化
- ⑤ 地区担当制の推進
- ⑥ 地域特性に応じた健康なまちづくりの推進
- ⑦ 部署横断的な保健活動の連携及び協働
- ⑧ 地域のケアシステムの構築
- ⑨ 各種保健医療福祉計画の策定及び実施
- ⑩ 人材育成

保健師の活動領域と実践能力

活動領域	身に着けるべき実践能力
対人支援活動	個人・家族への支援のための能力／小集団への支援のための能力 ケース・マネジメント能力
地域支援活動	地区活動のための能力／地域組織支援のための能力 保健事業の実施・評価のための能力 ケアシステム構築・地域ケアの質の評価のための能力
事業化・施策化のための活動	施策化・自治体レベルの計画策定のための能力／予算獲得のための能力
健康危機管理に関する活動	平常時の健康危機管理に関する能力／健康危機発生時に対応できる能力 自組織以外での健康危機発生時に支援する能力
管理的活動	PDCAサイクルに基づく事業・施策・保健活動の評価のための能力 情報を適切に管理する能力／人材育成、自己研鑽・自己開発の能力
保健師活動の基盤	根拠に基づいた保健師の活動を実施する能力 保健師の活動理念である社会的公正・公共性について理解し、活動を倫理的に判断する能力

出典：埼玉県・さいたま市：保健師人材育成プログラム,Ⅳ－5-7

対人支援活動

■ 個人・家族への支援のための能力

- 地域に暮らす人々の生活の多様性を理解し、家庭訪問、来所相談、健康相談の場面など、あらゆる保健活動の場面で、個人及び家族への支援ができる能力
- 医学的・心理学的・社会的な知識をもとに、健康と生活の多面的なアセスメントを行い、保健指導、面接やカウンセリング、健康教育、直接的なケア等を提供できる能力
- 支援を評価して次の支援に結びつける能力

■ 小集団への支援のための能力

- グループを対象に健康課題解決のためのアセスメント、支援、評価を実施できる能力

■ ケース・マネジメント能力

- 個人・家族・小集団の支援において、必要な資源を導入し、その調整を行い、効果的効率的な支援を行う能力
- 関係機関連携調整能力

地域支援活動

■ 地区活動のための能力

- 担当地区のアセスメントと課題を明確化し、地域の健康課題を地域組織および関係機関と協働して解決することかできる能力
- 地区活動において、健康課題により、地域の人々の権利擁護を行い代弁者の役割をとる能力
- 担当地区内の個別事例の管理をする能力

■ 地域組織支援のための能力

- 地域の健康課題に応じて地域組織を育成し協働する能力

■ 保健事業の実施・評価のための能力

- 計画された事業を地域で実践し、その成果を評価できる能力
- 地域の代表者と交渉・調整して協働活動を推進する能力

■ ケアシステム構築・地域ケアの質の評価のための能力

- 地域の健康課題の分析に基づき、新たな制度や施設を創設し、その制度が効果的効率的に運営できるよう調整や改善を行い、さらにそのケアシステムもしくはケア自体の質の評価を行える能力

出典：埼玉県・さいたま市：保健師人材育成プログラム,Ⅳ－5

事業化・施策化のための活動

- 施策化・自治体レベルの計画策定のための能力
- 中長期計画策定・評価の能力
- 事業計画作成・評価の能力
 - ・ 自治体の施策体系と法的根拠の理解、計画のレベルと内容に合わせた地域データ収集と分析、分析に基づいた計画の立案・評価能力(疫学、統計、研究的手法の活用能力)
- 予算獲得のための能力
 - ・ 自治体の財政システムの理解、計画の必要性の説明能力

健康危機管理に関する活動

～全ての活動領域の要素が土台～

<平常時から求められる能力>

公衆衛生の視点で地域の特性や健康課題を把握し、関係各所とのネットワークを構築する能力

<健康危機発生時に必要な能力>

日頃のネットワークを最大限に活用し、部署横断的な連携により、住民の命と健康を守る活動を主体的に実践する能力

管理的活動

管理的立場でなくても、専門職として保健福祉の業務の全体を把握し、理解することが必要！

- PDCAサイクルに基づき、所属部署内外の関係者とともに、事業評価、施策評価、保健活動の効果検証を行い、必要な見直しを行うことができる能力
- 組織内外の保健活動に係る情報を適切に保管、開示、保護する能力
- 組織の人材育成方針を理解し、保健師の人材育成計画を作成する能力
- 学会への参加や発表など専門職としての自己研鑽や自己開発の能力
- 後輩を指導育成する能力

保健師活動の基盤

- 保健師の活動の理念である社会的公正について理解し、活動を倫理的に判断できる能力
- 個人・家族・組織の持つ多様な価値観を理解し、それぞれの対象と多様なコミュニケーションを取れる能力
- 活動においては、自己の能力を客観視でき、自己の限界を理解して他者と協働して、保健活動を進めることができる能力
- 自己管理能力(自己の健康管理ができること、メンタルヘルスの管理ができること)

専門的能力に係るキャリアラダー

保健師に必要な能力をレベル別に示したもの

階層とは必ずしも一致しない

＊今、どの段階にあり今後どういう能力を獲得していく必要があるのかを把握することが重要。

管理職としてのキャリアラダー

B-1 B-2 B-3 B-4

A-1

A-2

A-3

A-4

A-5

階層

新任期

中堅期

管理期

専門的能力に係るキャリアラダーのキャリアレベル

レベル	到達レベルの目安
A-1	組織の規則等を習得し、個別支援や地域診断に基づく地区管理等の能力を醸成し、保健師としての基本的な視点と実践能力を獲得する時期。
A-2	基本的な日常業務を自立して行える時期。
A-3	業務全体を理解したうえで通常の業務全般について自立して行える時期。自身の担当業務だけでなく、所属する組織やチームを見渡し、組織的な役割を担う。地域診断や基本的な施策化を自立して行うことが出来る。
A-4	地域診断に基づく施策化ができ、地域や関係機関の信頼を得て協働活動ができる。複雑な課題に対応でき、組織人として職務を遂行できる。係内でリーダーシップをとって保健師業務を推進できる。次期指導者としての役割を獲得する時期。
A-5	職場において統括的機能を果たす保健師として、保健活動の実践への指導・助言を行う指導的役割を果たし、リーダーとしての役割を発揮する時期。専門職として特定分野のエキスパートとしての役割を担う。

所属組織において果たしている役割や、責任を持つ業務の範囲、専門技術の到達レベルにより区分

新任（A-1）のキャリアレベル

*本研修にて獲得を目指すレベル

所属組織における役割

- ・組織の新任者であり、行政組織人および保健師専門職としての自覚を持つ。

責任を持つ業務の範囲

- ・担当業務を的確に把握・理解し、個別事例に対して責任を持つ。

専門技術の到達レベル

- ・基本的な事例への対応を主体的に行う。
- ・地域活動を通して地域特性や地域資源を把握し、地域の人々の健康課題を明らかにする。

A-1レベルにおいて求められる能力①

対人支援 活動

1-1. 個人及び家族への支援

- 個人及び家族の健康と生活について分析し健康課題解決の支援計画を立案できる。
- 個人及び家族の多様性や主体性を尊重した支援を指導を受けながら実践できる。
- 支援に必要な資源を把握できる。

1-2. 集団への支援

- 集団の特性を把握し、指導を受けながら支援できる。

地域支援 活動

2-1. 地域診断・地区活動

- 指導を受けながら、担当地区の情報を収集・分析し、健康課題を明確化できる。

2-2. 地域組織活動

- 地域特性を理解し、住民と共に活動できる。
- 多様な地域組織の役割や関係性について把握できる。

2-3. ケアシステムの構築

- 担当地区の各種サービスとその関係性を理解し、指導を受けながら担当事例に必要なサービスを活用できる。

A-1レベルにおいて求められる能力②

事業化・ 施策化の ための 活動

3-1. 事業化・施策化

- 所属自治体の施策体系や財政のしくみについて理解できる。
- 担当事業の法的根拠や関連政策について理解し事業を実施できる。

健康危機 管理に関 する活動

4-1. 健康危機管理の体制整備

- 関係法規や健康危機管理計画及び対応マニュアルを理解できる。
- 健康危機に備えた住民教育を指導を受けながら行うことができる。

4-2. 健康危機発生時の対応

- 健康危機発生後、必要な対応を指導者の指示のもと実施できる。
- 現状を把握し、情報を整理し、上司に報告する事ができる。

A-1レベルにおいて求められる能力③

管理的活動

5-1. PDCAサイクルに基づく事業・施策評価

- PDCAサイクルに基づく事業評価方法を理解できる。
- 担当する事例に係る評価結果に基づき支援方法の見直しができる。

5-2. 情報管理

- 組織における情報管理に係る基本指針を理解し、業務に係る文書等を適切に管理できる。
- 保健活動上知り得た個人情報を適切に取り扱うことができる。
- 業務の記録を適切に行い関係者への情報伝達ができる。

5-3. 人材育成

- 組織の人材育成方針及び保健師の人材育成計画を理解できる。
- 自己の成長を振り返り、次の成長につなげることができる。

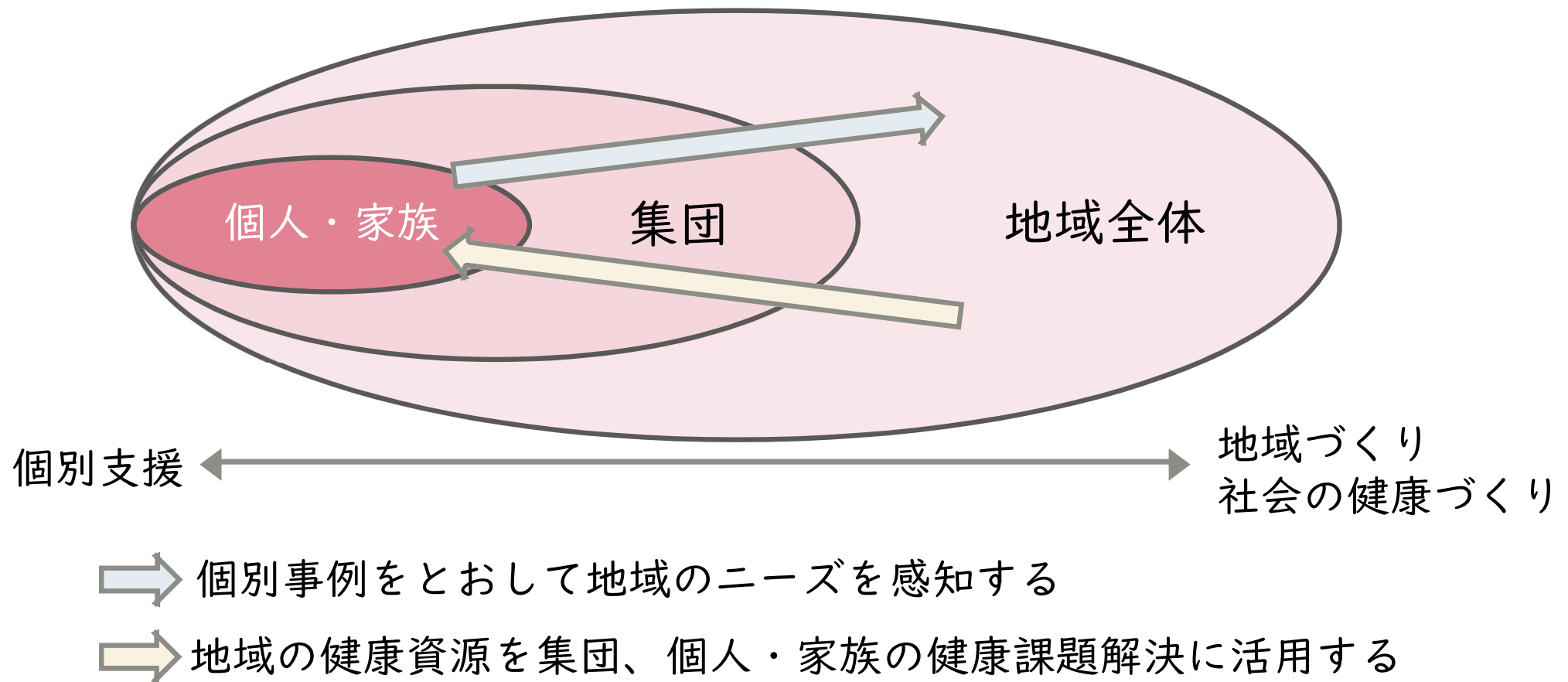
保健師の活動基盤

- 根拠に基づく保健活動を実施するため、実施した保健活動の記録を適切に行うことができる。

新任期保健師が特に伸ばしたい能力

- ① 公衆衛生の視点で地域をみる目を養う
 - ・健康教育の実施運営などの集団支援
 - ・かかわった事例や地域住民、統計等の資料から地域ニーズを抽出する力
- ② 家庭訪問など、個別のアプローチの必要性を理解し、実践する
 - ・相談、面接、家庭訪問などの個別支援
 - ・記録し、まとめる力
 - ・コミュニケーションスキル
 - ・上司への報告・連絡・相談
- ③ 保健師としてのアイデンティティを実感する

保健師活動の対象と保健活動展開の特徴



対象者への直接的支援

■ 直接的で個別的な支援は保健師の専門性が発揮される活動の一つ

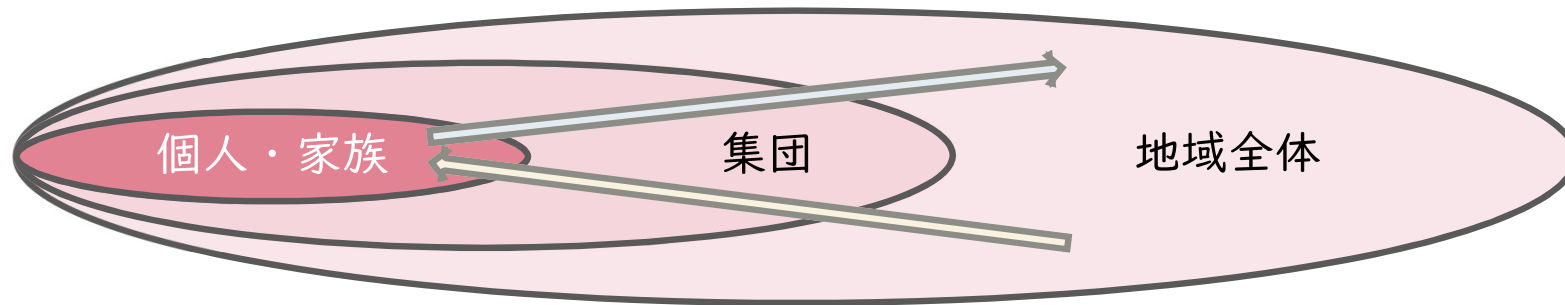
→行政保健師には、一つの専門機関や既存のサービスでは課題解決が困難な、多重課題を持つケース（いわゆる困難事例）への対応が求められることが多くなっている

対象者との信頼関係の構築

+

支援体制構築のための関係機関との関わり

コミュニケーションスキルが不可欠



地域全体の健康課題を見極めるうえでも、 個別支援が基盤となる

広い視野をもって対象者をみる

- ・住民の生活の場に入るからこそ、顕在的な問題の背景にある潜在的な健康課題を把握することができる
- ・健康問題を抱えている対象者だけでなく、広く地域住民と顔の見える関係性を築くことにより、地域住民が気付いている健康課題や地域の資源を、地域の人々の力を借りて把握することができる

報告・連絡・相談

報連相もコミュニケーションのひとつです

- 何に困っているかわからない時はとにかく相談する
→話すことで整理できることは多い
- 報告機会は自身の振り返りの機会にもなる
→状況を簡潔に整理して伝えるためには、何ができていて
何ができていないのかを把握する必要があるため

困っている時ほどお早めに！



保健師としてのアイデンティティとは

保健師の職業的アイデンティティ*

自らの志向、行動に結びつく、常に保健師であるという職業に対する意識であり、日々発達していくもの

- 保健師とは何をする職業なのか
 - 保健師とは何を目的に活動するのか
 - 保健師である私とは何か
- という問いに対し、どのような信念を持っているか

*根岸ら.「行政保健師の職業的アイデンティティ尺度」の開発と関連要因の検討.日本公衛誌,57(1),27-31,2010

目指す保健師像を描く必要性

自分はどのような保健師になりたいのか？
保健師としてありたい姿は？

- 目指す「保健師像」があることで、目標が明確になる
- 目標があることで評価が可能になる



保健師としてのアイデンティティの確立にもつながる

職業的アイデンティティの確立は、質の高い業務の遂行につながる

専門的能力の評価

キャリアラダーを活用し、到達度を評価する
(保健活動を振り返る)

- ✓ 自分自身で（自己評価）
- ✓ 上司や先輩保健師と一緒に（他己評価）

「自信がない」時の振り返りポイント

- 本当に知識や技術が不足しているのか？
- 理想や目標が高すぎないか？
- 客観的に評価できているか？